

モーリタニア月例報告
(2021年4月)

2021年5月
在モーリタニア日本国大使館

主な出来事

【外政】

- 4月 1日 第2回日アラブ政治対話（ビデオ会議）イスマイール外相の参加
- 4月 1日 アルジェリアとの国境管理合同委員会の設立
- 4月2～5日 イスマイール外相のチュニジア、リビア及びアルジェリア歴訪
- 4月12日 モーリタニア・アルジェリア間の定期コンテナ船の就航式典の開催

【G5サヘル】

- 4月 1日 G5サヘル諸国に向けたアフリカ開発銀行及びUNHCRによるコロナ禍対策支援

【経済】

- 4月12～19日 ラマダン期間の経済対策・食料品の価格高騰（報道）

【経済協力】

- 4月22日 食料安全保障庁の食糧無償配布オペレーション開始式典への江原大使の出席
- 4月25日 令和元年度補正予算IOM実施案件「モーリタニアにおける気候変動により引き起こされた自然災害への防災対策及びレジリエンスの強化」引渡式への江原大使の出席
- 4月27日 UNICEFを通じた緊急無償（コールドチェーン）
- 4月28日 国連機関を通じた支援（共同プレスリリース）

【新型コロナウイルス】

- 4月 5日 高齢者等へのワクチン接種開始
- 4月 9日 ガズワニ大統領のワクチン接種
- 4月14日 COVAXワクチン第一便の到着

4月15日	AUとの特別会合でのワクチンパスポートへの支持表明、ワクチン接種状況
4月25日	ワクチン・医療機材支援
4月26日	COVAX第2便の到着

【外政】

●第2回日アラブ政治対話へのイスマイル外相の参加（1日付当地政府系ニュースサイト「モーリタニア通信（AMI）」）

1 イスマイル（M Ismael Ould Cheikh Ahmed）外務・協力・在外モーリタニア大臣は、ヌアクショットにて、第2回日アラブ政治対話（ビデオ会議）に参加した。

2（1）イスマイル外相は、アラブ側議長を務めたムハンマド・カタール副首相兼外務大臣と日本側議長を務めた茂木外務大臣に対する謝辞に続けて、アラブ諸国における日本の取組を称賛しつつ、科学、文化及び人材育成の文脈で設けられた目標を達成するうえで、今回の会合の重要性を強調した。

（2）また、新型コロナウイルスの危機及び世界的規模で起きている悪影響に立ち向かうべく、必要なワクチンの供給に取り組むよう、全ての参加国に呼び掛けた。同時に、コロナ禍の第一波が発生した時点からモーリタニアが取った感染予防・疾病対策についても説明した。

（3）更に、コロナ禍に伴う経済的打撃に対抗する最適な解決策として、途上国の債務免除の必要性を説明し、この点に関し、日本によるモーリタニアへの支援の成功を祝福した。

3 今次対話には、ムーライ・エリ（M. Mohamed Lamine Moulay Ely）多国間協力局長、バギ（M. El Alem Abdel Baghy）アラブ連盟担当局長が同席した。

●アルジェリアとの国境管理合同委員会の設立（1日付当地ニュースサイト「essahraa.net」）

1 1日、メルズーグ（M. Mohamed Salem Ould Merzoug）内務・地方分権大臣は、モーリタニア訪問中のベルジュード（M. Kamal Beldjoud）アルジェリア内務大臣との間で、モーリタニア・アルジェリアの国境管理合同委員会設立に係る覚書に署名した。

2 メルズーグ内相によれば、本件覚書は、兄弟国の首脳間の強い意志を踏まえ、両国の協力関係の発展・強化を目的としたもので、国境管理合同委員会を通じて、国境を越えた経済・貿易・文化・スポーツの交流の強化と、共通の国境の安全確保、様々な組織犯罪と不法移民への対策が可能となる。

3 また、ベルジュード内相は、同委員会の設置は「開発と治安」の二重の挑

戦に対するのみならず、現在の挑戦に新たなアプローチを提案することで、ポジティブな効果をもたらすもので、国境地域の開発と同地域を社会経済的拠点にすることの必要性を強調した。

●イスマイル外相のチュニジア、リビア及びアルジェリア歴訪（当地政府系ニュースサイト「モーリタニア通信（AMI）」等）

（１）チュニジア訪問

２日（金）、イスマイル外相はサイド大統領と会談し、ガズワニ大統領からの親書を手交した。同会談では、良好な二国間関係を新たなステージに引き上げることの必要性が確認された。

（２）リビア訪問

３日（土）、イスマイル外相は、アル＝メフィ・リビア首脳評議会代表に対し、ガズワニ大統領からの親書を手交した。会談では、新たに選定された暫定統一政府に対するモーリタニアの支持を表明した。

（３）アルジェリア訪問

４日（日）、イスマイル外相はテブン・アルジェリア大統領と会談し、ガズワニ大統領からの親書を手交した。イスマイル外相からは、モーリタニアに対するアルジェリアの「不変の支持」に感謝しつつ、コロナ禍における医療団の派遣や、職業訓練・高等教育分野、安全保障面での支援に謝意を表明した。５日（月）夜、イスマイル外相はヌアクショットに帰任した。

●モーリタニア・アルジェリア間の定期コンテナ船の就航（１５日付当地独立系ニュースサイト「Agence Ecofin」等）

１．１２日、アルジェ港において、モーリタニアとアルジェリアを結ぶ定期コンテナ船の就航式典が開催された。同便は、主としてモーリタニア及びアフリカにアルジェリア製品の輸送のために用いられる。同航路は、「Anisfer Line」社によって、モーリタニア及び近隣諸国に対してアルジェリア産品を輸出するための定期便を２０日ごとに運航され、モーリタニアまでは約５日で到着する。同社によれば、ヌアクショットに到着した物資は陸路でセネガル、マリ等の近隣国に輸送される。同航路は、アフリカ大陸自由貿易圏（AfCFTA）の具体化の文脈で導入されたもの。

２．第一便は、１９日（月）にヌアクショットに到着予定。同社社長によれば、コンテナ船の最大積載能力は５００～６５０ＴＥＵだが、初回輸送分は２０ＴＥＵ（１ＴＥＵは２０フィートコンテナ１個分）にとどまるものの、今後のオペレーターの需要によって輸送量の増加を期待。

【G5サヘル】

● G5サヘル諸国に向けたアフリカ開発銀行及びUNHCRによるコロナ禍対策支援（1日付アフリカ開発銀行プレスリリース）

1 アフリカ開発銀行とUNHCRは、1日、モーリタニア政府の新型コロナウイルス感染症対策を支援するため、保健省に対し、救急車を供与した。

2 ホード・エッシェルギ州を支援対象とした総額18万米ドルの本件贈与は、新型コロナウイルス感染症との闘いを目的とするG5サヘル諸国に向けた支援の一環である。アフリカ開発銀行による総額約20百万米ドルの支援は、裨益国（モーリタニア、ブルキナファソ、マリ、ニジェール及びチャド）政府との連携の下、UNHCRによって実施される。

3 これら援助は、G5サヘル諸国の新型コロナウイルス感染症対策能力の強化及び感染症の監視システムの近代化を目的としている。救急車の供与は、難民や受入れコミュニティに対する国家の社会的保護の措置の展開を支援するものであり、食糧・栄養管理システムの支援にも資する。

4 今後、新型コロナウイルス向けの試薬・消耗品からなる15万個以上の検査キット及び個人防護具百万個以上がモーリタニアに供与される予定。さらに、医療従事者200名に対して新型コロナウイルス感染症専門の研究所における予防・管理・患者受入れ・技術についての研修が実施される予定。

5 マリア・スタヴロプロウ（Ms. Maria STAVROPOULOU）UNHCR所長は、救急車はホード・エッシェルギ州に暮らす患者の医療搬送を可能とし、難民や受入れコミュニティに向けた保健システムの強化に繋がると述べた。UNHCRはヌアクショット、ヌアディブ及びバシクヌ県（ホード・エッシェルギ州）に暮らす約7万名の難民及び難民認定申請者を保護する等、オペレーション支援を実施している。

6 また、アフリカ開発銀行は、G5サヘルに対し、脆弱国家や民主化移行過程の国家に向けた支援ファシリティ（la Facilite d' appui a la transition（FAT-Pilier I））を通じて約140万米ドルを贈与し、G5サヘル事務局の実施・調整能力の強化及びG5諸国におけるバイオ・セキュリティ及び生体臨床医学廃棄物の管理に係る研修の実施を目指す。

7 ママン・サンボ・シディク（Mr. Maman Sambo Sidikou）G5サヘル事務局長は、アフリカ開発銀行及びUNHCRによる本支援は、G5サヘル諸国が国境付近に暮らす人々の医療へのアクセスの向上に資する活動を調整することが可能となる旨述べた。

【経済】

●ラマダン期間の経済対策・食料品の価格高騰（12日～19日付当地政府系ニュースサイト「モーリタニア通信（AMI）」等）

1 12日付当地独立系民間紙「l'authentique」

（1）ラマダンを目前に、ラマダン期間中に需要が高まる食料品の価格が上昇している。砂糖は22ウギアから30ウギア、植物油は55ウギアから70ウギア、バターは22ウギアから40ウギア、輸入された鶏は80ウギアから100ウギアに価格が高騰した。野菜はこれまでの食料品価格高騰の影響を受けずにいたが、ラマダンの影響は受けている。

2 14日付当地政府系ニュースウェブサイト「モーリタニア通信（AMI）」

（1）13日、ラマダンの開始に伴い、「ラマダン・オペレーション」（総額228,851,720ウギア、約7億円相当）が開始された。このプロジェクトによって、最貧困層を含む市民は、ラマダンでよく消費される食料品が安価で入手できるようになる。ミクナース商業・産業・観光大臣は、同枠組みにおいて、コメ（1キロ15ウギア）、油（1リットル30ウギア）、デーツ（1キロ70ウギア）、粉ミルク（1キロ70ウギア）、ジャガイモ（1キロ12ウギア）、タマネギ（1キロ12ウギア）、砂糖（1キロ16ウギア）を安価で扱う販売所12か所がヌアクショット、2か所がヌアディブ、その他の州の州都においても設置されると述べた。これら食料品を低価格で提供するため、政府は価格の68%を負担する。

（2）また、上記に加え、ヌアクショットでは10数カ所の魚の販売所が設置され、パンは30ウギアで販売されることとなるが、これら2つのオペレーションには上記の予算には含まれていない。

（3）同大臣は同様に、食料安全保障庁（CSA）が社会保障（registre social）に登録されている貧困家庭21万世帯に対して食糧の無償配布を行う予定であるとした。また、イスラム・基礎教育省はマハドラ（イスラム宗教学校）に対して食糧配布を行うとの由。

（4）同省は、市場で政府が設定した価格が遵守されているかを確認するため、ラマダン期間中の監視体制を強化するとした。

3 19日付当地政府系紙「オリゾン」

（1）「ラマダン・オペレーション」の枠組みでは、①主要食糧の低価格販売、②CSAによる食糧の無償配布、③漁業・海洋経済省による魚の供給、④マハドラに対するデーツの供給、⑤商業連盟（Federation de Commerce）によるパンの供給が実施される。

（2）③では800トンもの冷凍魚が、全国各地の374の販売拠点での購入

(1キロ5ウギア)か、水産物配給公社(SNDP)による無償配布で入手が可能となっており、⑤のパンに関しては、普段は80か100ウギアで販売されているものが、各パン屋等販売拠点にて30ウギアで販売される。

4 19日付当地独立系民間紙「l'authentique」

(1) 例年までの食材豊かなラマダンとは異なり、本年のラマダンは、食材は豊富であるも価格の高騰が著しい。例えば、鶏の価格は300ウギアから倍増、輸入された鶏は80ウギアから200ウギアに値上がりした。

(2) ラマダンの開始に伴い、閑散としていた市場には食材が溢れたが、依然価格は高騰したままである。ある商人によれば、例年と異なり、売り上げが芳しくない模様。

(3) 実際、本年、住民は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で経済的な打撃を受けており、また、主要食料品の価格は上昇した。

(4) また、商人が売り場から商品を隠し、食糧不足を演じて価格を高く設定するということもある。

【経済協力】

●食料安全保障庁の食糧無償配布オペレーション開始式典への江原大使の出席
22日、江原大使は、平成30年度及び令和元年度食糧援助の見返り資金を部分的に用いた、モーリタニア政府による「ラマダン・オペレーション」の一角を担う無償配布オペレーションの開始式典に出席した。同オペレーションを通じて、貧困家庭21万世帯に対して食糧の無償配布が実施され、新型コロナウイルス感染症で経済的に疲弊した国民がラマダン月において食糧を確保することが可能となった。



●令和元年度補正予算IOM実施案件「モーリタニアにおける気候変動により引き起こされた自然災害への防災対策及びレジリエンスの強化」引渡式への江原大使の出席

24日、江原大使は、令和元年度補正予算IOM実施案件「モーリタニアにおける気候変動により引き起こされた自然災害への防災対策及びレジリエンスの強化」引渡式に出席した。本支援により、モーターポンプ8台及びテント8張りが南部ギディマカ州に供与され、モーリタニア南部における自然災害に対する防災能力及びリスク軽減能力の強化、さらに気候変動により引き起こされる国内避難民の発生予防に寄与することとなる。



●UNICEFを通じた緊急無償（コールドチェーン）

1 4月27日、日本政府は、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中南米諸国及びアフリカ諸国に対する支援として、約3,900万ドル（約42億円）の緊急無償資金協力を実施することを決定した。このうち、モーリタニアにおいては、892,773ドルが供与される。

2 今回の協力では、国連児童基金（UNICEF）を通じ、中南米及びアフリカの計31か国を対象に、各国国内でのワクチン接種体制を構築する「ラスト・ワン・マイル支援」として、保冷設備や運搬車両等の機材供与等を通じてコールド・チェーンの整備を実施される。

●国連機関を通じた支援（共同プレスリリース）

日本政府は、2021年度において、モーリタニアにおける自然災害への防災強化及びンベラのマリ難民に対する人道的支援のために、国連機関を通じて計175万ドルを拠出することを決定した。本支援は、一部に保健衛生分野の支援も含んでおり、新型コロナウイルス感染症の拡大阻止のためにも資することが期待される。

各プロジェクトの内容は以下のとおり：

(1) UNHCR：「モーリタニアにおけるマリ難民に対する保護及び支援」62.5万ドル

(2) WFP：「ホード・エッシャルギ州におけるンベラキャンプのマリ難民に対する緊急食糧援助」、100万ドル

(1) IOM：「モーリタニアにおける気候変動及び災害への組織的・事業的対応能力改善」12.5万ドル

【新型コロナウイルス】

●高齢者等へのワクチン接種開始（４日付当地独立系ニュースサイト「サハラメディア」）

保健省は４日、５日から７５歳以上の年配者及び６０歳以上で慢性疾病を抱える者へのワクチン接種キャンペーンを開始することを発表した。上記対象者又はその代理が最寄りの保健センターへワクチンを接種する者の身分証明書を提示すれば、ワクチン接種リストに登録することができる。他方、６０歳以上で慢性疾病を抱える者の場合には、身分証明書に加え、住居がある県の医師長か、同対象者を担当する慢性疾病の専門家によって発行された証明書が必要となる。ワクチン接種は予約制で実施される。

●ガズワニ大統領のワクチン接種（９日付当地独立系ニュースサイト「エッサハラ」）

１．ガズワニ大統領他閣僚のワクチン接種

（１）９日、ワクチン接種第二段階の一環として、ガズワニ大統領は、大統領府において、第１回目のワクチンを接種した。２週間後に第２回目のワクチンを接種する必要がある。

（２）８日、ハメッド保健大臣が、９日は大統領及び閣僚のワクチン接種日になると発表していた。

●COVAXワクチン第一便の到着（１４日付当地政府系ニュースサイト「モーリタニア通信（AMI）」）

（１）１４日、ハメッド保健大臣は、オムタウンシー国際空港において、COVAXメカニズムを通じて、６９、６００回分のコロナ・ワクチンを受領した。

（２）ハメッド大臣によれば、モーリタニアはCOVAXメカニズムに最初に参加した国の一つであり、今回受領したワクチンは、３月２６日に開始したワクチン接種キャンペーンを補強するものであり、既に優先カテゴリーである５、０００人が接種済みである。また、今回の受領分により、大半の高齢者及び慢性疾患患者に対する接種が可能となる。ハメッド大臣は、関係するパートナーの努力に敬意を表しつつ、モーリタニア国民の６３％への接種を実現すべく、連携した取組が必要と述べた。

（３）これに対し、ドゥラゾ当地EU大使は、EUの支援を紹介しつつ、関連する全ての取組のシナジーが必要であると言及した。

●ワクチンパスポートへの支持表明及びワクチン接種状況（１５日付当地政府

系ニュースサイト「モーリタニア通信（AMI）」及び20日付当地独立系ニュースサイト「サハラメディア」)

1 ワクチンパスポートに係るAUとの特別会合

(1) アフメドゥ・ハイミド設備・運輸大臣はAU加盟国の運輸大臣との特別会合（テレビ会議）に参加した。同特別会合ではワクチンパスポートが議題にあがり、同イニシアティブのアフリカ大陸における観光業・航空業への影響について話し合われた。

(2) 新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が各国で開始されていることを受けて、会合では2023年以降のワクチンパスポートの導入及び、新型コロナウイルス感染症の拡大状況の追跡システムについて議論された。

(3) 同会合において、AU委員会は2022年末までのワクチン接種率60%の達成、旅行者の保健関連書類の共有、公共交通機関の使用状況追跡システムの電子化、公衆衛生分野における連携メカニズムの設置等を目標としたロードマップを提案した。

(4) アフメドゥ大臣は、ワクチンパスポートのイニシアティブへの支持を表明し、2022年末までのワクチン接種率60%達成を含め全ての保健分野における目標を受け入れるとした。

2 ワクチン接種状況

(1) 19日付の保健省の発表によれば、既に223人が新型コロナウイルス感染症の二回目のワクチン接種を受けた。

(2) ワクチン接種キャンペーンを開始以来、6,815人が一回目のワクチン接種を受けたが、その内、大多数は医療従事者や慢性疾病を抱える者、政府高官である。

(3) また、19日よりワクチン接種キャンペーンは内陸地でも開始される予定。

●ワクチン、医療物資支援（25日付当地独立系ニュースサイト「クリデム（cridem）」等）

1. UAEによるワクチン・医療機材支援

(1) 25日、UAEが供与するワクチン1万回分及び60トン分の食料物資がヌアクショットに到着した。

(2) 在UAEモーリタニア大使によれば、コロナ禍が始まって以来、UAEは3回の空便で、35.2万個の検査キットと70台の人工呼吸器を含む計33.2トンの医療物資をモーリタニアに供与した。

2. ドイツの検査キット支援

ドイツはモーリタニアに対し、7万回分のPCR検査キット及び3.5万回

分の抗原検査キットを供与した。同医療物資は、4月19日～23日に当地を訪問した独GIZ、シャリテ - ベルリン財団、ロベルト・コッホ研究所、フリードリヒ・レフラー研究所の医療専門家チームによって、モーリタニア保健省に供与された。

3. COVAX第2便が到着

26日、COVAXファシリティを用いたワクチン調達の第2便として、31,200回分のワクチンがヌアクショットに到着した。